

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部 システム創成学科 4年

参加プログラム: IARU GSP NUS1 派遣先大学: シンガポール国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
⑤.民間企業(業界: 広告・メーカー) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

2014年6月19日~7月26日までの5週間にわたり、シンガポール国立大学のサマープログラム IARU GSP「Southeast Asia in Context」に参加しました。

欧米各国、オーストラリアの一流大学から、約50名の学生が集まっていました。

宗教や食文化に関する歴史から地理学まで、様々な観点から東南アジアを見つめ、プログラム中には1週間インドネシアヘフィールドトリップに行き、現地の方々の話を聞きながら、実体験と共に更に知識を深めることができました。

参加した動機

東京大学での専攻である「環境工学」とリンクさせ、東南アジアを中心とした環境資源とその歴史について知識を深めようと試みました。

また、東京大学とは異なり、学内居住型の University Town が形成され、アジアトップクラスの学業実績のあるシンガポール国立大学で勉強してみたいと考えました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

TOEFL iBT の一定スコアを早めに取得しておく、後の手続きはスムーズに進みます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

シンガポールで Student VISA の発行が必要でしたが、留学先大学の指示に従えば問題ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

サマープログラム後、帰国せずそのまま10ヶ月の交換留学に向かったため、特に歯を完治させておくよう心掛けました。しかしながら、実際は滞在中に親知らずが痛み、シンガポールで現地の日本人歯医者での診断を受けました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

本サマープログラム直後の交換留学と合わせて、1年間契約で AIU 保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

渡航前に、所属学科で「夏期インターンシップ」として単位認定申請をしました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL iBT の勉強も兼ねて、英語のニュース等で耳を慣らしました。

これまでは、中国とシンガポールでそれぞれ1週間ずつの学生会議に参加したことがありますが、本格的な留学は初めてで、ディスカッション等のロジカルスピーキングはあまり得意ではありませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本の文房具やノートは海外製品に比べて質が良いので、日本から持参することをおすすめします。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

5週間のプログラムのうち、4週間は週3日で午前中3時間と午後3時間の講義スタイル、1週間は周辺の東南アジアの国へフィールドトリップに行きました。

講義に関しては、東南アジアの歴史に関しての事前予習課題のリーディングがとて多く、毎晩24時間空いている学内の勉強スペースで、各国の友達と支え合いながら勉学に励みました。

②学習・研究面でのアドバイス

授業での英語スピーキングは、もちろんネイティブの学生のレベルに合わせて行なわれるので、予習復習が大変重要となります。

③語学面での苦勞・アドバイス等

慣れないディスカッションに大変苦勞しましたが、シンプルな英語で積極的に発言すれば相手の学生も優しく受け入れてくれました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

6人でシャワー・トイレ共有のフラットタイプで、部屋はスーツケースがぎりぎり広げられる程度の広さでした。与えられた個室は大変狭かったですが、教室から徒歩2分程の University Town 内に滞在することができ、食堂やジムにも近く、夏休みのみの滞在と考えると快適でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

シンガポールは大変蒸し暑く、毎日昼は 30℃を軽く越えます。水分を小まめに補給して、健康体維持を心掛けました。

電車とタクシーは日本の約半分程の価格なので、頻繁に利用しました。

食事は、日本と同じお店も多く、シンガポールのローカルフードも試しながら、朝昼晩きちんと食べるように心掛けました。大学内の食堂は、300円以内でお腹いっぱい食べられるほど大変安かったので頻繁に利用しました。

日本でも使用していたクレジットカードと、現地 ATM 利用のためにキャッシュパスポート(デビットカードの一種)を作成して、2枚で過ごしました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は日本と変わらず大変良かったですが、海外渡航での最低限のマナーを常に心掛けていました。

シンガポール滞在中に、親知らずが痛んでどうしようもなかったため、現地で日本人歯医者を紹介してもらいました。しかしながら、簡単な治療と薬のみで、2万円も掛かってしまいました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃: 5万円

授業料・教科書代・家賃: 40万円

食費: 4万円

交通費: 2万円

娯楽費: 5万円

(奨学金で20万円をまかなって頂きました。)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

私が参加した夏期プログラムは奨学金付きだったので、Santander 基金より返済なしで20万円を支給して頂きました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

日本でインターンシップをしている外資系メーカーのシンガポール支店を訪問させて頂き、現地のインターン生や社員の方々と意見を交わしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

プログラム中の困ったことに関してはコーディネーターがいつも優しく対応してくれました。

大学内の職員は中国語ばかり話し、対応が悪いことが多かったです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館やPCルームは24時間開いている場所が多く、たくさんの学生が深夜まで熱心に勉強していました。

ジムや野外インフィニティプールも使い放題で、寮も学内にあることから、University Town は大変過ごしやすかったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

IARU GSP は、世界の一流大学から学生が集まっているため、それぞれの生徒のレベルが高く、学問に関する様々な場面で刺激を受けることが多かったです。英語がセカンドランゲージである東京大学や北京大学の学生には、授業についていだけでも大変で、必然的に予習復習に力を入れることになる為、体力的にも少しハードなプログラムでした。しかしながら、授業やフィールドトリップ以外での食事やナイトアウトで積極的に交友関係を築くことで、世界各国に友達を作ることができました。また、今回は東南アジアの文化や歴史という一つの分野に関して、各国様々な視点から意見を聞くことができたので、世界の文化に対する知見を広げる良い機会となりました。

②参加後の予定

今回のサマープログラム終了後、帰国せずそのままスウェーデンで交換留学に向かったため、英語力や海外経験に関しても、本格的な留学前として良いウォーミングアップとなりました。

日本に帰国後は、専攻の環境工学に関する大学院に進学する予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

IARU GSP のように各国の優秀な学生が一度に集合し、数週間をともにできる機会は滅多にありません。プログラム中は、日本で過ごしては考えられないような素晴らしい刺激をたくさん受けることができます。そのためにも、TOEFL iBT のスコアを早めに取得し、積極的に応募することをおすすめします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

キャッシュパスポート: <http://www.jpcashpassport.jp/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: IARU Global Summer Program 派遣先大学: 国立シンガポール大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界: 商社)

派遣先大学の概要

シンガポールのトップ大学であり、アジアでもトップレベルの大学と知られる。シンガポールの国柄もあり、生徒は多国籍。

参加した動機

イギリスでの交換留学を経て、日本が西洋だけではなくアジア各国とも深く結びついていると感じ、自らの目でアジアの国を見てより深く学びたいと感じたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

シンガポール大学の担当者はすぐに返信をくれ、また頼りになるので、分からないことがあればこまめにメールで相談するとよいと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

私のプログラムでは出国前にはビザは必要ありませんでした。その後シンガポールについてから、STUDENT PASSをとるために入国管理局に行きました。(留学生担当の方からの指示がありました)ちなみにこの手続きについてはかなり時間がかかり、私の場合には3時間ほど待たされたので余裕を持って計画すると良いです。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に何もしていません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIUの海外旅行傷害保険にオンラインで加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

授業に出席できなくなるので、各授業の講師に相談し、期末テストの代替措置としてレポートなどを課していただきました。単位互換はありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

3年次に交換留学でイギリスで1年間勉強しました。その後はランゲージエクステンションやドラマを見るなどして勉強していました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

何でも現地で手に入るの基本的には心配いりません。ただ冷房がとても寒いので、わりと厚手のパーカーなどの上着が必要です。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

5週間のプログラム。東南アジアの歴史・経済・文化についての必修クラスとカンボジアを中心とした東南アジアの宗教についての選択クラスを履修しました。選択クラスでは9日間のカンボジアフィールドトリップが含まれていました。授業は週3日しかありませんでしたが、日々の授業には日本人にとってはかなり多めのリーディングが課されるのでわりときついです。印象に残っていることに関しては、必修クラスは東南アジアを一つの地域として見る視点からの授業だったので、東南アジア人としてのアイデンティティについての授業で、シンガポール人の意見が聞けたりEUと比較したヨーロッパ人の意見が聞けたりと他国籍の環境ならでは興味深かったです。

②学習・研究面でのアドバイス

自分の専門分野ではなかったの、大変な部分もありました。出来る限りプログラム前に本などで基本的な歴史や文化について勉強しておくのと良いと思います。

③語学面での苦労・アドバイス等

日本以外からの参加者はほぼみんなネイティブなので、英語の面ではかなりきついです。しかし皆同じ関心を持って集まっているので、こちらから積極的に動けばとても協力的で、様々な面でサポートをしてくれました。とにかく話しかけて友達を作って上手く助けてもらいましょう！

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学にアレンジしてもらった大学の寮でした。6人フラットの個人部屋でキッチンシャワーなどは共同でした。人によるみたいでしたが、わたしのところは同じプログラムの子が1人いるだけであとは空き部屋でした。たしか5週間で5万程度だったと思います。蟻が大量に発生して、退治しても退治しても現れたので本当に苦労しました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

蒸し暑いです。日本の夏をイメージしていればいいと思います。その夜も気温が下がらない感じです。大学は市街地から少し離れた西側にあるので、中心地に行くには1時間弱かかりますが、寮のあるキャンパスには食堂がいくつかあるので、外に出なくても生活は出来ます。交通機関は主に MRT というメトロですが、バスもかなり多くて実は便利なのでサイトで調べて活用すると良いです。お金は主にクレジットカードを使用し、現金はATMで海外キャッシングしました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はかなりよく、また大学の中で生活していたので、特に気をつけた点もありません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

プログラム費、家賃は合わせて45万円ほどで、ほとんどは奨学金でカバーしてもらうことができました。航空券は5万円程度で、食費などを合わせた生活費は1週間に1万円程度だったと思います。他に遊びに行ったときなどにまた追加で数万円使ったかと思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Jプログラム申請の際に記載されていた ASSO と Santander の2つに応募し、2つあわせて40万円受給しました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末はシンガポール市内の観光や、宿題をして過ごしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特別サポートが充実しているわけではありませんでしたが、留学生担当の方はメールの返信もはやく頼りになる方だったので、何でも相談することができました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

24時間空いている自習室、スタバなどの学習できる場所はたくさんあります。図書館はちがうキャンパスにあるので遠いですが、本は借りられました。短期留学ではネットの E 文献的なものにはアクセスできませんでした。学生ならばジムは無料で利用できました。食堂はキャンパス内だけで3つほどあるほかサブウェイや韓国、日本料理のお店もあります。キャンパス内には wifi があったので、建物外でも使用可能で便利でした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムの最も良かった点は現地に行って直に学ぶことができた点だと思います。2つのクラスがありましたが、私の選択クラスのテーマはカンボジアだったので、カンボジアに行き、その歴史や文化について学びました。特に私が関心を持ったテーマはポルポト政権による虐殺の歴史と生き抜いた人々がそれをどのように乗り越え、次の世代でどのように語られているのかでした。カンボジアは近年経済の著しい成長が見られているという話を事前に聞いていましたが、実際にカンボジアで様々な場所を訪れて生存者の方々の話を伺ってみると、経済成長という言葉の裏に置き去りにされたままの過去の歴史の遺恨を感じることができました。いまだに多くの人が当時の記憶に苦しめられ続けているのは痛ましいことでしたが、一方で伝統武道や音楽を復興させることや、戦争体験を語ることに自らの人生の意義を見だし、前向きに生きている人がいたことは希望を感じられることでもありました。今まで普通に日常生活を送ってきて、生の意味を深く考えることもありませんでしたが、このプログラムを通じて、人生という長い期間の視点で考えることを学べたと思います。

また4月から勤務予定の企業では東南アジアで働く機会が得られる可能性もあるのですが、東南アジアとまとめきれないような各国ごとの歴史や文化背景を知ることができたのも、今後の人生において役立つ経験だったと思います。

②参加後の予定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

自分が生活してきた世界とは全く異なる環境で、いままで考えたこともないような問題を知り、刺激を受ける良いチャ

ンスだと思います。語学面でついていくのは簡単ではないですが、それもまた刺激となると思うので、ぜひ参加してみてください！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

